

ま

第四號

編輯責任者
保 刈 郡 司

年頭のことは

町長 水倉新作

思ひ出多い一九四九年を送り、こゝに新しき年一九五〇年を迎へましたことを町民の皆さまと共に心からお祝ひ申上ます。

かへりみますれば戦後四ヶ年、誠に多事多難の歲月ではありましたが、常に愛町の精神に燃え

る皆さま方の御協力により生々發展の実を挙げ得ました事は、皆さま方と共に慶びに堪えないところであります。敗戦、食糧難、住宅難と更に充進するインフレーションと、かく苦難多き道程ではありましたが、新制中学校建設、赤サビとの合併、共同住宅の建設等々、実に意氣深き足跡を残して一九

四九年は去りましたが、更に次々と山積する諸問題を控へた建設の年一九五〇年を迎へまして、皆さま方と共に町民、

縣民、国民と致しまして果すべき義務の遂行を固く決意致したいと思ふのであります。かくして今年こそ、我らの最良の年として全町の和と民主の精神をもつてすれば全世界の最良の町の建設が實現されるものであることを信じて疑はないものであります。

いさ、か所感を述べて年頭のことばといたします。

◆公民館だより

★第一に御報告いたしたい事は、十一月三日文化の日に縣下の優良指定公民館の一つとして縣教育委員会より表彰されたこととあります。御指導御後援の賜と御禮申上ます

★婦人会、みのり會の主唱で「勤勞感謝の日」に敬老會を催すことが出来ました。また別稿の如く「成人の日」の成年式の打ち合せも済み、準備がすんでおります。御家庭でも赤飯かなにかで御祝してあげて下さい

★第一回討論會を「町の公共施設として現在何が最も必要か」について九月二十四日夜開催、講師に長沼ハル子氏婦人の立場から保育所を、笛木甚一郎氏総合グラウンドを、古俣保氏現在食客をしてゐる文庫をせめて間借りにと、それ熱辯をふるわれ、その後活潑な質問や意見の發表があつて終つたのですが、第二回の予定であつた「町の發展策如何」は講師難からとうとう流會の止むなきにいたり葉書回答をお願いした方々に申し譯ない次第でした。續いて第三回「町の國保を健全に發達させるには」は十二月二十五日夜まず安川政次郎氏現在の赤字の状況を説明、(健)關係の本戸清吉氏それほどの赤字なら我々は涙を呑んで保険料を一般並にあげられても、から除外しないでくれと、高田弥雄司氏、前の組合の創始者の一人として健全なる發達を望むむと冒頭根本的には、國保は治療より予防に力を注いで治療費を節約することだが、現在の問題としては本戸氏の意見に賛成と結ぶ、最後に倉品克一郎氏前の組合の失バイした原因を説明、社會保險制度に言及、現實の問題としては、給付の

制限と(健)家族の除外を主張。この日は寒氣厳しく第一回と異り集る人も四五十人で一般に活氣がなかつたのは残念でした。尚毎月開いてゆきたいと思ひますので題目や講師の方々を御教下さい。

★乳兒の健康相談
十月から毎月第二土曜日の午後より役場の二階で開いています。これは國保、兒童委員、婦人会との仕事です。五月五日の「こどもの日」に赤ちゃん大會を開こうと相談中です

★映画合評會
十二月十八日夜「ハムレット」の合評會を新潟日報上村氏指導の下に開きました。席上映画サークルを作ることになりました。月々良い映画を推薦し合評會を開きたいと思つてゐます

★巻劇研のことについて
十二月二十七日新潟の宝塚で劇の縣決勝コンクールに眞船豊の「水泥棒」をもつて参加したが装置や何かの点で入賞出来ず、ただ友作に扮した田村一夫君が演技賞を得ました

★「ろばた」公民館は町の茶の間であると言われます、それで館報に「ろばた」欄を作りました御投稿下さい
カントは佐藤吉五郎氏、刀は金子曙山氏

★公民館報は全町へ配付するだけの金がありませんので若し御希望の方々は公民館又は係まで申し出下さい
誌代を頂くか、或は公民館維持會にでもするか、今度出来る善の運営審議會にかつて預きます

★文庫
町の方々と馴染深い文庫は今、藏書の破損の修理と整理……併て新分類の作制とに係る人達が一生懸命です
今しばらくお待ち下さい、文庫再開の時は公民館報及隣組の廻覧板によりお知らせ致します

成人の日

第二回成年式

式場 卷町公民館
日時 昭和廿五年一月十五日
午前十時より

主催 卷町公民館
青年團
婦人會
場

プログラム

成年式 司會 富井 彪
式 辭 町長 水倉 新作
祝 辭 石川 寛

町會議長 小林 十四三
中學生代表 倉品 千代子
婦人會代表 平野 ミチ
答 辭 佐藤 吉之助
閉会の辭 記念撮影 (中食)

座談會...町會議員を圍んで
司會 阿部 富夫

★祝賀 藝能大會

會場 小学校第一運動場
司會 佐藤 昭吾
挨拶 佐々木 勇
遊 戯 小学生 中學生
歌謡コンクール...町民一般
アコーデオン 高橋 哲男
演 劇 卷 劇 研
眞船 豊作「水泥棒」一幕

國保を健全に發達させるために

業書回答より

御承知と思はれますが、町の國保も難航を續け年度末約五斗萬円の赤字が見込まれる状態です。その打開策として保険料値上げ給付の制限など色々考へられてはいるようですが、さし当つて(健)の扶養家族の取扱いが問題となつて來ました。と言ふのは町がこの人達の醫療費として月々支拂いしている額七八萬圓に對し入つて來る保険料は月四萬圓程度です。尙保険料の軽減額は一般の人にくらべて大体半分です。(健)とは職場に於ける健康保険であります。

◆國保を健全に發達させる爲に

- 一、(健)關係を.....
- (イ)除外する(ロ)保険料を一般並に上げる(ハ)現状のまま、(ニ)どうでもよい(ホ)分らない
- 二、保険料の値上げについて(イ)賛成(ロ)反対(ハ)どうでもよい(ニ)分らない
- 三、給付の制限(例へば往診療など全部患者持にする)(イ)賛成(ロ)反対(ハ)どうでもよい(ニ)分らない

- 四、一部負担金の醫者への窓口拂について(イ)賛成(ロ)反対(ハ)どうでもよい(ニ)分らない
- 五、其の他について

- 回答なし 佐藤 從(一区)
- 一除外する 安川政次郎(二区)
- 四反対 三反対
- 五十三代治(三区)
- 一保険料を一般並に上げる
- 二反対 三反対 四賛成
- 回答なし 高橋 弘(四区)
- 倉品克一郎(四区)
- 二反対 三賛成
- 村井又次(四区)
- 二反対 三反対
- 一除外する 松村アイ(五区)
- 本戸清吉(五区)
- 一保険料を一般並に上げる
- 佐野 恭藏(六区)
- 一除外する 但し限定條件の下に 三賛成 四賛成
- 本間仁作(六区)
- 一分らない(健)全加入者数が分らないので二賛成三賛成四賛成
- 回答なし 八木 滋豊(六区)
- 眞島 博(六区)
- 二反対 三賛成
- 一除外する
- 二反対 三賛成
- 四分らない

- 回答なし 齋藤 作次(七区)
- 回答なし 竹部末三(七区)
- 回答なし 西川宇重郎(八区)
- 一保険料を一般並に上げる
- 二賛成 四賛成 理想としては反対 貧民救済社会事業を基調とする
- 回答なし 中野仁太郎(八区)
- 回答なし 野沢 政雄(十区)
- 回答なし 高田彌雄司(十区)
- 一保険料を一般並に上げる
- 二反対 三賛成 齒科醫の給付を廢止 四賛成 五事務費を出來る限り削減せよ
- 回答なし 相坂 睦二(十区)
- 久保田トシ(十一区)
- 一保険料を一般並に上げる
- 二反対 三どうでもよい
- 四どうでもよい
- 回答なし 田畑シゲ(十一区)
- 回答なし 中村治一(十三区)
- 一現状のまま、二反対 三反対 四反対
- 回答なし 小出 進(赤サビ)
- 一保険料を一般並に上げる
- 二反対 三反対 四反対
- 以上

晩春

松竹映画

この映画は「戸田家の兄妹」「父ありき」「長屋紳士録」「風の中的牝鷄」等常に優秀なる作品を發表して來た名匠、小津安次郎監督が今日までオリジナルシナリオ主義を捨て、珍らしく廣律和郎の短篇の説つ父と娘より取材、映画化したものである。婚期を過ぎようとするある大學教授の一人娘が、やもめ暮しの父親の深い理解と愛情によつて結婚するまでの父と娘の愛情の世界をとらへた美しい物語。開卷 北鎌倉の驛からすべり出すキヤメラは鎌倉、京都の自然を極明に追ひ、俳諧、茶の湯の味はいに通ずる寂の世界、日本古有の美を描寫する。そこにこの作者特有の、まるで宗匠の如き作風が至上の名人藝として評價される故にだと思ふだが見終つた後味として我々はもつと生々とした生活をし、又それを大切にしたいと心の何処かで不満をもちたものではなからうか.....

◆卷町文庫

藏書二千冊突破運動!!

町の方々から常に愛され、親しまれつ、育まれて來た卷町文庫も(創立昭和廿一年六月)早や三年と有餘月、顧りみれば文庫創立当時の藏書数わずか三百冊に充たず利用者数も一晩十五人か二十人程度の有様でしたが、追々町の方々の深い愛情と、理解と相俟つて利用者数も激増し當時の文庫(現在作報事務所巻出張所)では場所が狭まると遂に現在の所(役場樓上)に移つたのであります。現在文庫の藏書数(一千三百餘冊)となりましたが、入庫圖書と、利用者数が相反する状態を續けて參つたのであります。利用者にとりて充分なる満足と與へることが出来ません。今度文庫の貸出をしてゐる人たちの發案——藏書数二千冊突破運動を展開致すこと、成りました。近日中に係の人達が各家庭にお願に上ります。皆様方の理解と、御協力をお願い申し上げます。尙當文庫は今迄に多数の寄贈圖書を戴き更に皆様の御愛藏書をお借してゐる方々に対して心から御禮申し上げます。



◎グランドが欲しい!!

体協 笛木 甚一郎

敗戦によつて沈滞した日本民族に再び明るい希望と歡喜ときようじをもちたらしめるものは何か、それはまず第一にスポーツである。古橋、橋爪の選手一行の彼のアメリカに於ける水泳大會の華々しい優勝は、何にを我々にもたらしたであらうか、榮養失調の様な我々敗戦日本民族の優秀性に再び自信を持ち得たものではあるまいか。日本は戦争に敗れたが、併し戦争の原因も、敗戦の原因も、若し青年、無心の子供達には何にも罪も無ければ又責任もないのであります。その青年が又子供達がスポーツを樂しみ又精進するに適當なグランドに恵れないない事は全く遺憾に堪へないものであります。小学校での野球を御覽になればお判りと思ひますが打つた球は民家の屋根は勿論塀をこはし鳥を荒らし硝子を割るのであります。校舎の硝子の被害だけでも相當のものではありますまいか。又見物人も全く觀る場所が無く皆道路上に立つて觀戦する状態です。先般宮内町で縣下の中学野球大會が舉行され我等の卷中

も參加致しましたので應援に參りました。あんな小さな宮内町に何んと素晴らしいグランドがあるのではありません。樂に二チームの試合が行なはれます。卷中の場合のそれを考へる時に全くなさけない様な氣持にさいなつたのであります。彌彦グランド支障のため昨年と今年と連續二年郡青年團の体育大會が卷高校グランドで舉行されましたが、その折りの町の人出、賑やかさは、大祭に次ぐと言つても過言でないものであります。従つて町に金の落ちた事も相當であつた事は彌彦グランドが競輪場化された今日、郡の中心である我が卷町に、是非とも四百米の綜合グランドが欲しいのであります。否絶対に必要になつて來たのであります。精神は肉体と無關係に存在し得ないのであります。優秀なる肉体は優秀なるスポーツに依つて優秀であると言ふ事は、精神と肉体と共に優秀であると言ふ事 あります。それは又智性の面に於いても優秀であるとも言ひ得るのであります。今當町としても各方面に中々多端なる事は存んじて居ります。けれどもこの際グランド設置問題に深い観心と理解とを持つて頂きたいのであります。吾が卷町永遠の發展の爲に、一刻も早く立派なグランドを設置すべきだと思ふのであります。

きけわだつみのこころ

(日本戦没学生の手記)

あか／＼と大陸の夕陽が津浦線のレールを照らしていた。南京戦を終えて江北ライ河の畔に屯していた頃だつた。友はそのレールに腰かけて小石を拾つては投げつけながら心の苦しさを……頭では今度の戦争を否定しながら、やはり日本軍の軍服を着ざるを得ない心の苦しさをしみじみ私に打明けた。その友もとう／＼千島の海に沈んでしまつた。

私も死ぬ気にはなれなかつた。その後除洲へのあつちの夢細の上に顔を埋めながらはいざり廻つても、秋の大別山を生簾ばかりからつて歩いて、敵へのにくしみは湧かず、況や毛頭死ぬ気にはなれなかつた。妻に頼んで私は「ドイツ戦はつ学生の手記」を送つてもらつた。

そんな……我々よりもつとんと若くもつと感じ易く更にもつと傷みやす魂いのひらめきがこゝにある。母に残した手紙を読みながら私は涙が出て仕方がなかつた。傾所で書いたとゆう手紙を読みながら今また「軍」と所謂上官に對する反感とソウ悪を新にした。そして私自身また「上官」としてその頬に手のひらをあてた人達に對して泣ききれない恥しさとくるしさを覺えずにいられなかつた。

更に戦犯としてチャンギ刑務所でコウ首台へ登る幾日を哲学の本に書きちらしたとゆう一文に至つては、私は聖者の姿をそこに見て、思はず正座、胸中合シヨウしたことであつた。そしてこんな貴いヤセイによつて得られた平和なら今度こそ死をとしても守らなければならぬと固く／＼心に決するのであつた。勿論現在米ソの間にはさま

れたしかも被占領國の我々は、實際面、それこそカマキリのチノの如く無力であるかも知れないけれども、しかしかつてB29に對して竹やりでも、もつて立ち向うとしたあのドンキホーテ式の勇氣を……その捨身の勇氣を今度はこちらの方に向けなければならぬと思ふのであつた。(齋藤順作)

卷町海紅句會

(鬮汁會。悼妹尾美雄氏)

わがくらし一木を愛する日あり 秀
冬の目窓ありて
私ついで足袋はくこのやうなく
らしになれて笑顔もてる妻 孝平

夕飼妻と税の事話し合ふ子等無
心なり配給の秋刀魚
藁の香に馴れて居る私の仕事新
藁の香り 一 二

薄氷の道を音たて、走るペダル
音たて、走るこの朝
一瞬ものものの音聞えず大木伐
り倒されたり

雪おさまりし今朝 順作
その赤い毛糸の手袋がいとしよう
て街に雪ふる

酒のめば淋しうて夜の霞たはし
る

樹令幾百年の過ぎし松の木あり
寒椿咲く
此処醸造倉に周辺あり寒椿咲く
一太浪

この朝の新雪吹雪となる蜆壳は
千葉から来た男 翠城
冬海の猛りが一つの巖を没し
曙山

吹雪く日憶ふは佐渡泊りの君が
顔髻髻たり
新雪美しく降りけさ鶏が卵を産
んだ 金剛

三人三態海鳴りは聞き馴れてみ
かんにうすい皮
あくまでも一つにならうとする
意欲冬の水流れ

募 集

論 説

町民の声(ろばた欄)

隨筆 小品文

短歌 俳句

詩 其の他

入庫案内

◆新しく入つた本……

社会科学文庫新憲法 金森徳次郎

庭園 龍居松之助

交通 石井正昭

国際聯合 田岡良一

世界農收学 淺田幸雄

日本名作劇名作選 眞船 豊

世界文学全集 アンカレニナ上下巻 中村自葉

私達の郷土新潟縣 新潟縣 社会科学
ダンテ神曲 黒田正利

大地 第三部 谷崎潤一郎

ハムレット シエークスピア 島 盟

讀書の技術 下村 湖人

人生を語る 日本戦没
きけわだつ 学生の手記

第二世界大戦回顧録 第二巻
ウインストンチャーチル

社会科学文庫 裁判所のはなし
入山 實

自然科学と恩人 林

編輯後記 一九五〇年の新春御
芽出度う御座居ます
町民の皆さん方の積極的な御
協力を得まして、こゝに第四号
を送ることが出来ました。

今後共皆様方の力で力強く育て、ゆきたいものと思つています
皆さんの積極的な御批判と御
投稿を御待ち致しております

◎いづれも原稿用紙使用のこと
◎宛先 公民館又は編輯委員